

外研

日语分级读库



にほんご よむよむ文庫

Vol.2 1 6

タクシー



日本NPO法人 日本語多読研究会 主编
松田 緑（日） 著
上田 泉美（日） 插图

外研

日语分级读库



にほんご よむよむ文庫

Vol.2 1 ⑥ タクシー

日本NPO法人 日本語多読研究会 主编
松田 緑（日） 著
上田 泉美（日） 插图

外语教学与研究出版社
北京

京权图字：01－2008－1941

© Originally Published by ASK Publishing Co., Ltd., Tokyo Japan

图书在版编目(CIP)数据

外研日语分级读库. Vol. 2. 1 ⑥ / 日本NPO法人日本语多读研究会主编. — 北京: 外语教学与研究出版社, 2009. 1
ISBN 978-7-5600-8120-5

I. 外… II. 日… III. 日语—语言读物 IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2009) 第 006909 号

出 版 人: 于春迟

责任编辑: 刘 军

装帧设计: 王 军

出版发行: 外语教学与研究出版社

社 址: 北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址: <http://www.fltrp.com>

印 刷: 北京国邦印刷有限责任公司

开 本: 880×1230 1/32

印 张: 0.75

版 次: 2009 年 2 月第 1 版 2009 年 2 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 978-7-5600-8120-5

定 价: 27.90 元 (全五册)

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话: (010)88817519

物料号: 181200001

日本語を勉強しているみなさんへ

「にほんごよむよむ文庫」は、

日本語を勉強しているみなさんのための「読みもの」シリーズです。

楽しみながらたくさん読んでください。

やさしいものからたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。
読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいでしょう。

目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

「にほんごよむよむ文庫」4つのルール

- 1 やさしいレベルから読む。
- 2 辞書を引かないで読む。
- 3 わからないところは飛ばして読む。
- 4 進まなくなったら、他の本を読む。

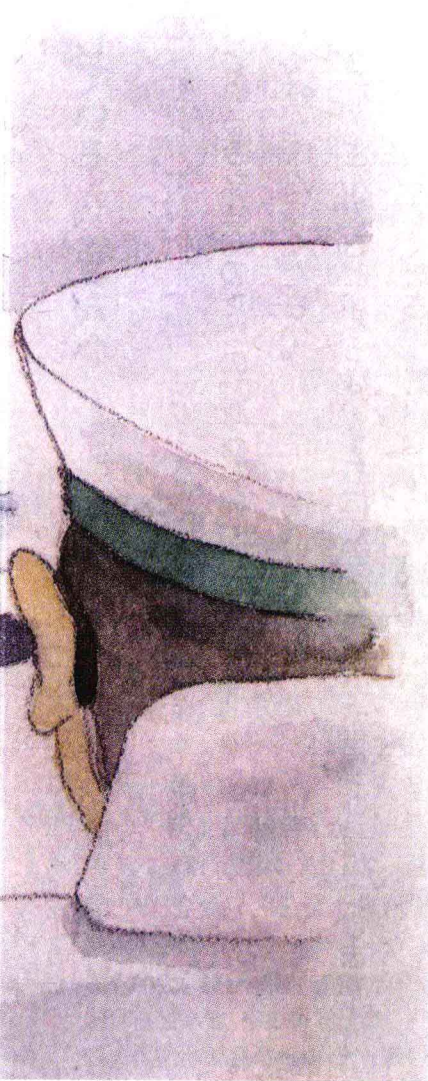
木村^{きむら}さんは、タクシー^{たくしー}の運転手^{うんでんしゅ}です。

ある日^ひの夜^{よる}、木村^{きむら}さんのタクシー^{たくしー}は、緑町^{みどりまち}の大きな道^{おおみち}を走り^{はし}ました。

とても寒^{さむ}い夜^{よる}でした。

緑町^{みどりまち}の交差点^{こうさてん}で、女^{おんな}の子^こが手^てを上げ^あました。

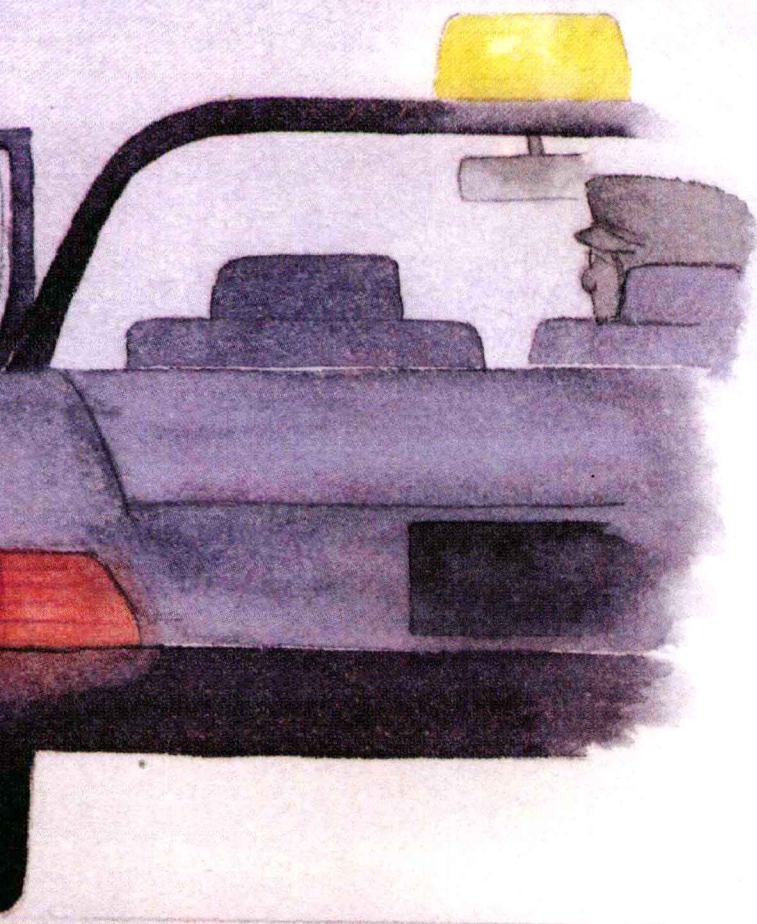
木村^{きむら}さんのタクシー^{たくしー}は、女^{おんな}の子^この前^{まえ}に、ゆつくり止^とまりました。





きむら
木村さんは、たくしーのドアをあけました。

おんなこ
女の子は、たくしーにのりました。



木村さんは聞きました。

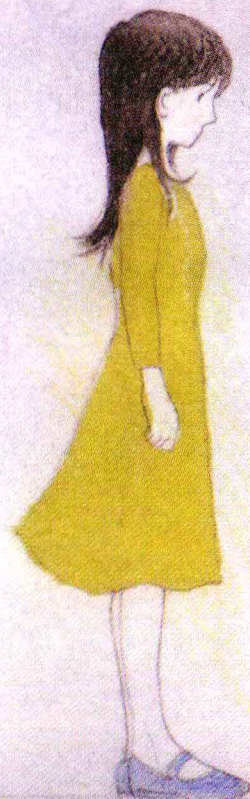
「どこまで行きますか？」

女の子は答えました。

「桜公園まで、お願いします」

女の子は、十二、三歳ぐらいでした。

黄色い服のかわいい子です。



木村^{きむら}さんは、女^{おんな}の子^こに言^いいました。

「もう九時^{くじ}ですよ。一人^{ひとり}ですか？」

女^{おんな}の子^こは言^いいました。

「少し前^{すこまへ}まで、友^{とも}だちの家^{いえ}にいました。自転車^{じてんしゃ}で、この交差^{こうさてん}点^{てん}まで来^きました。

でも、こ^こで自^じ転^{てん}車^{しゃ}が壊^{こわ}れました……」

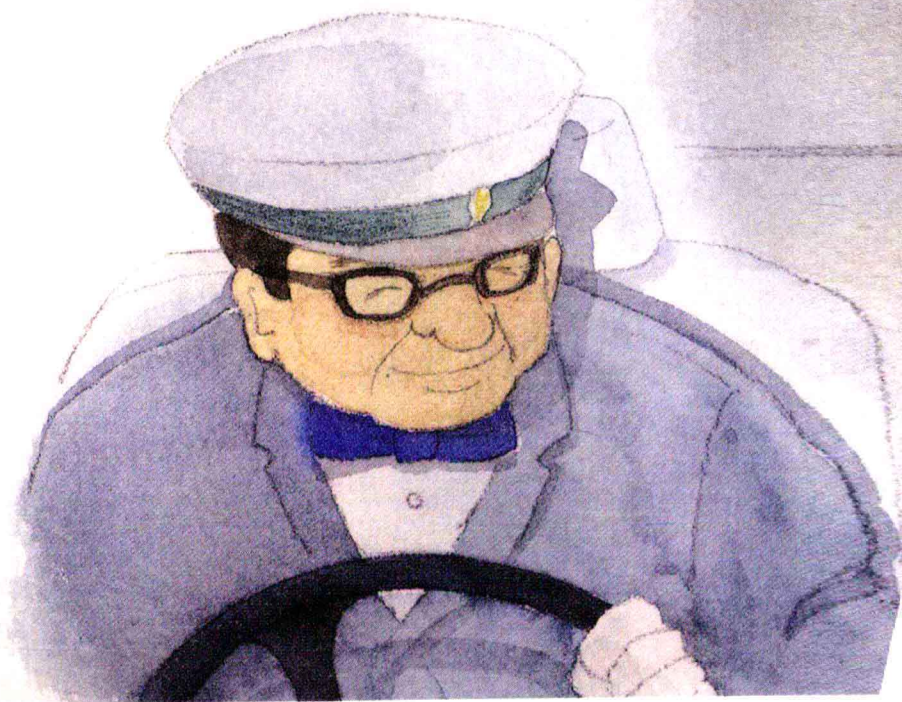
「そうですか。それは大^{たい}変^{へん}でしたね」



おんな こ
女の子は聞きました。

さくら こうえん
桜公園まで、何分ぐらいですか？

じゅっぶん
「十分ぐらいですよ」



たくしーは、桜公園に着きました。

公園の隣に、小さな家がありました。

女の子は言いました。

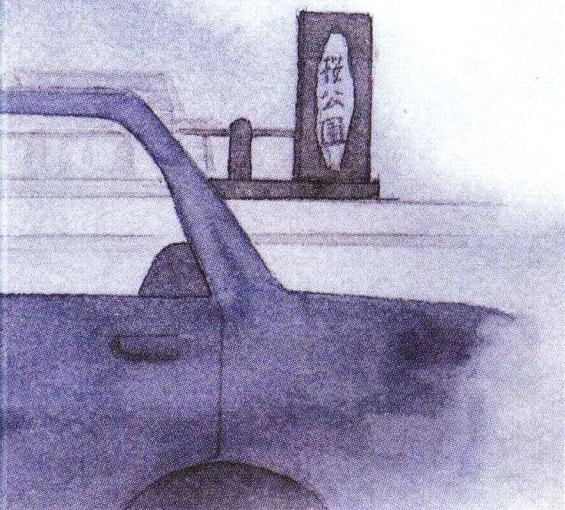
「ここが私の家です。」

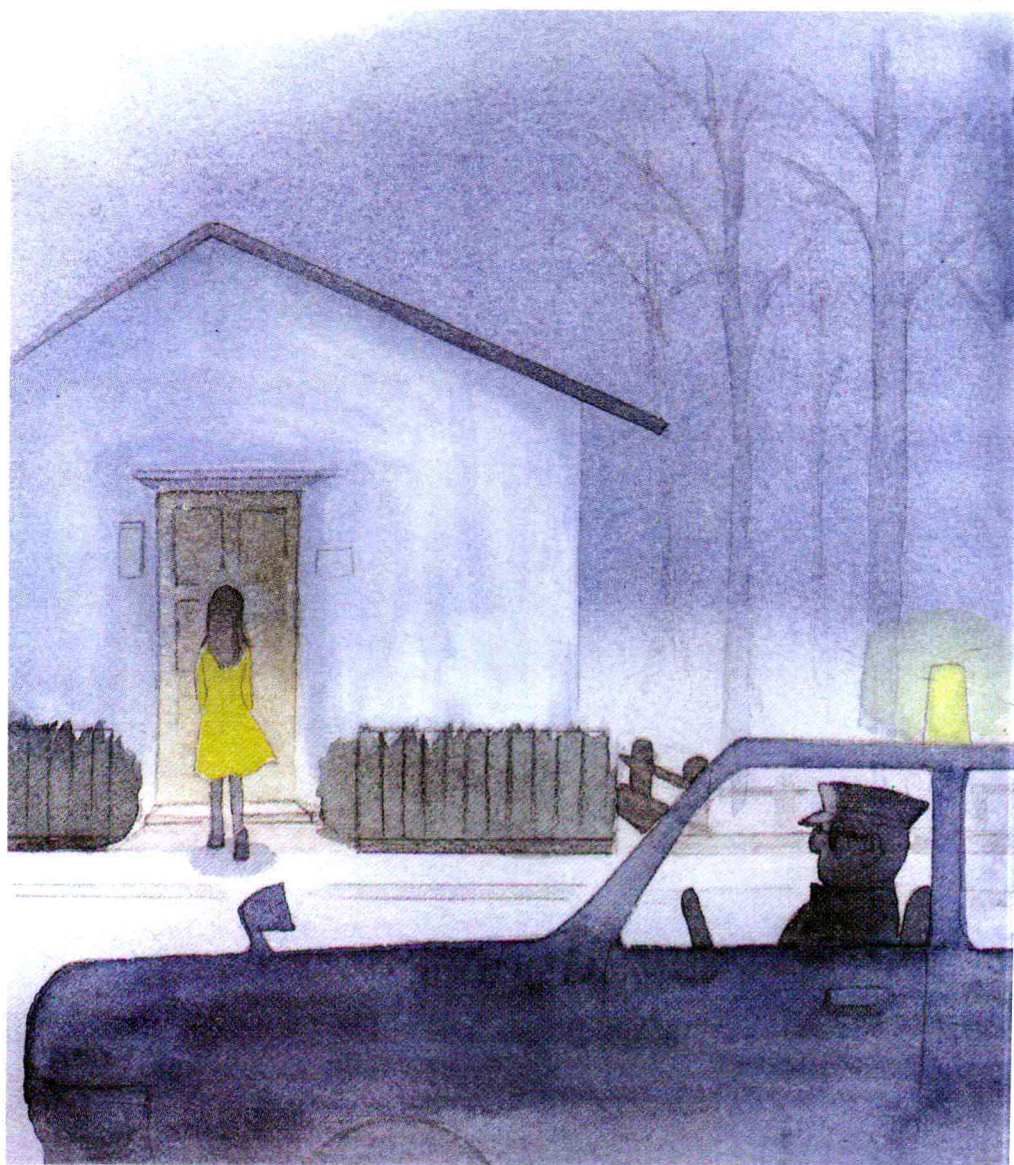
すみません。今、お金がありません。

でも、家に母がいますから、母にもらいます」

木村さんは、タクシーのドアを開けました。

女の子は、家の中に入りました。





木村^{きむら}さんは、

車^{くるま}の中^{なか}で五分^{ごふん}ぐらい待^{まち}ちました。

女^{おんな}の子^こもお母^{かあ}さん^きも来^きません。

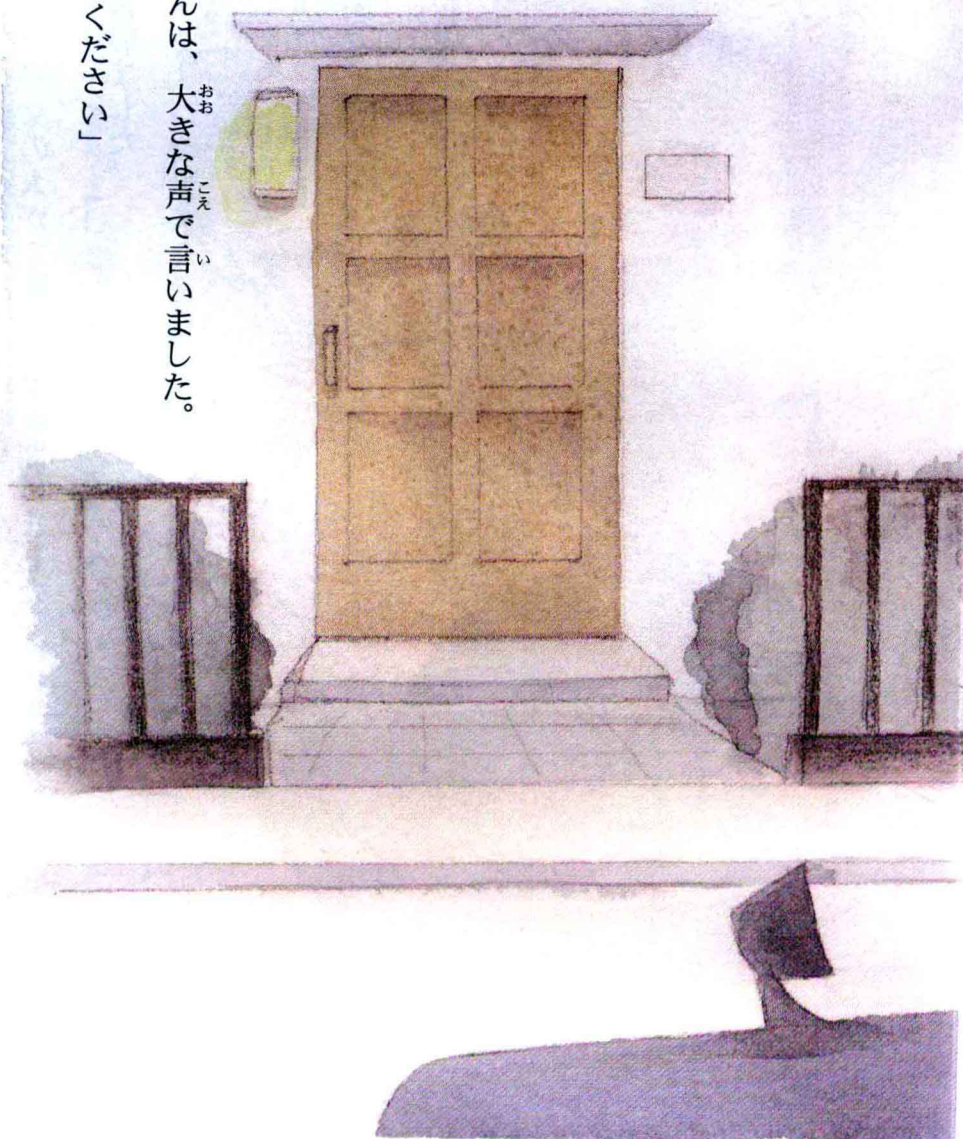
木村^{きむら}さんは、車^{くるま}から降^おりました。

家^{いえ}の前^{まえ}で、また五分^{ごふん}待^{まち}ちました。

でも、だれ^きも来^きません。



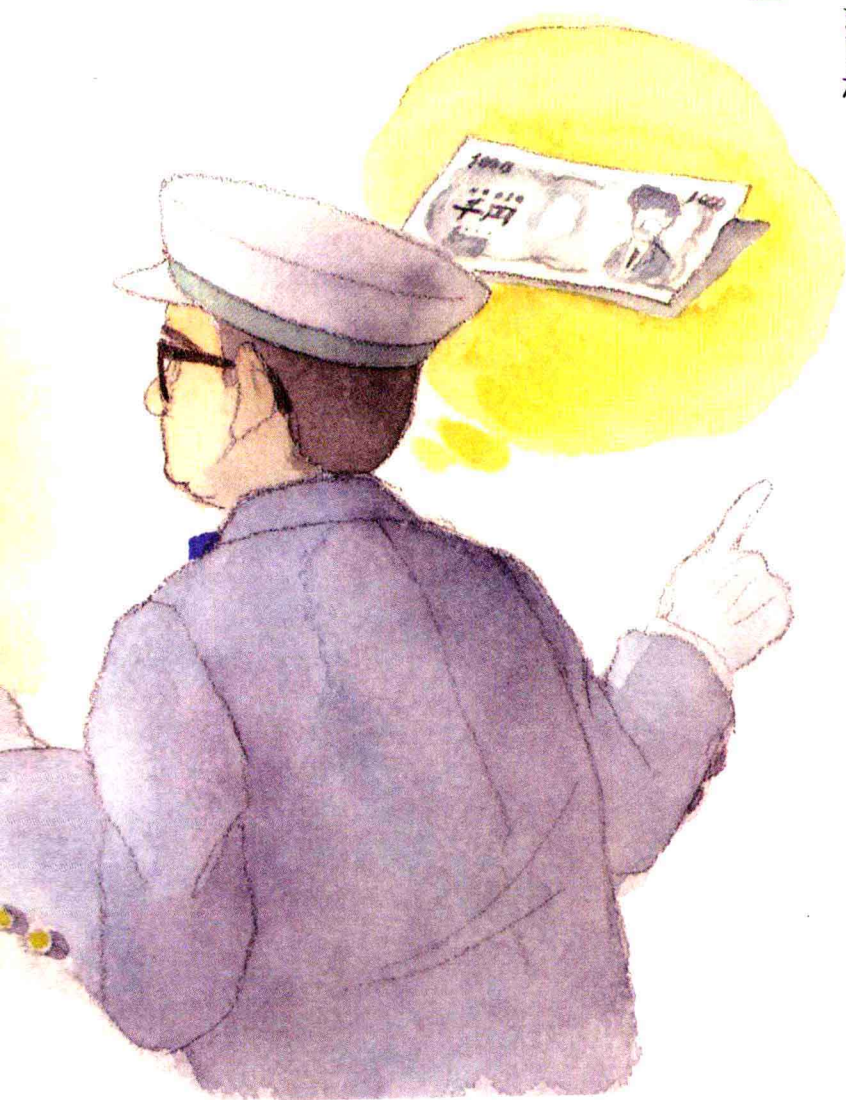
「ごめんください」
木村^{きむら}さんは、
大きな^{おお}声^{こえ}で言^いいました。



四十歳よんじゅうさいぐらいの女おんなの人ひとが、家いえのドどアあを開あけました。

その人ひとは言いいました。

「何なんですか？」



木村^{きむら}さんは言^いいました。

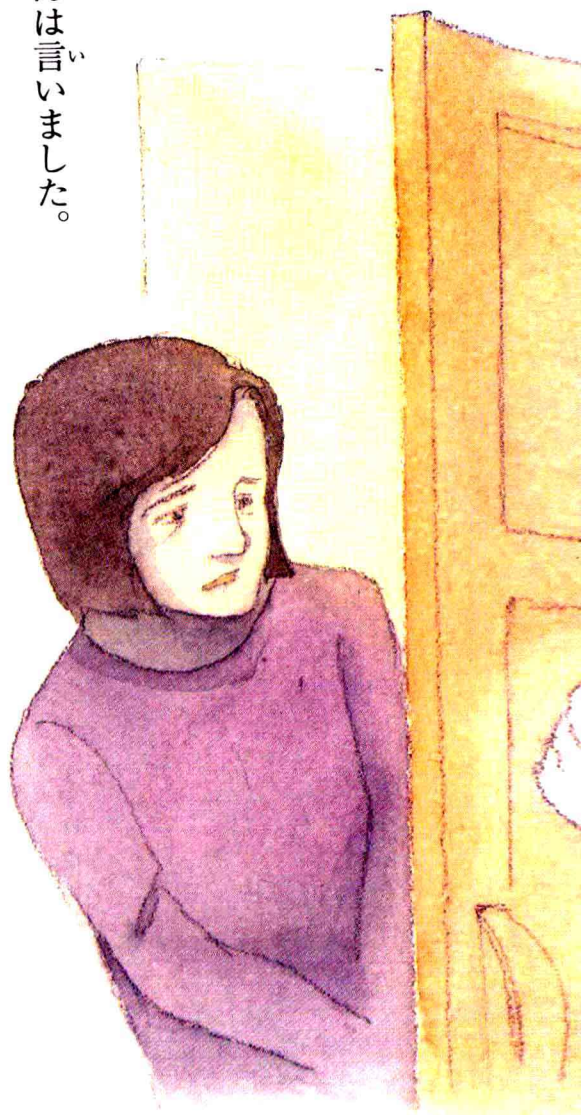
「タクシー代^{たくしーだい}をください」

「えっ？ タクシー代^{たくしーだい}？ どうしてですか？」

「私^{わたし}のタクシーに、女^{おんな}の子^こが乗^のりました。

そして、ここで降^おりました。十分^{じゅうぶん}ぐらい前^{まえ}です。

その子^こは、この家^{いえ}に入^{はい}りました」



「そ、その子は、何歳なんさいぐらいでしたか？」

「十二じゅうに、三歳さんさいぐらいでしたよ」

「髪かみ、髪かみは、長ながかったですか？」

「はい、長い髪ながかみでした。黄色きいろい服ふくのかわいい女おんなの子こでしたよ」

「えっ！」

「その子こが、緑町みどりまちの交差点こうさてんから、ここまで、私わたしのタクシたくしーに乗のりました。

タクシたくしー代だいをください」

「えっ、緑町みどりまちの交差点こうさてん！ …… そうですか……」